

## 29万頭の殺処分

## あの時、そこは戦場だった



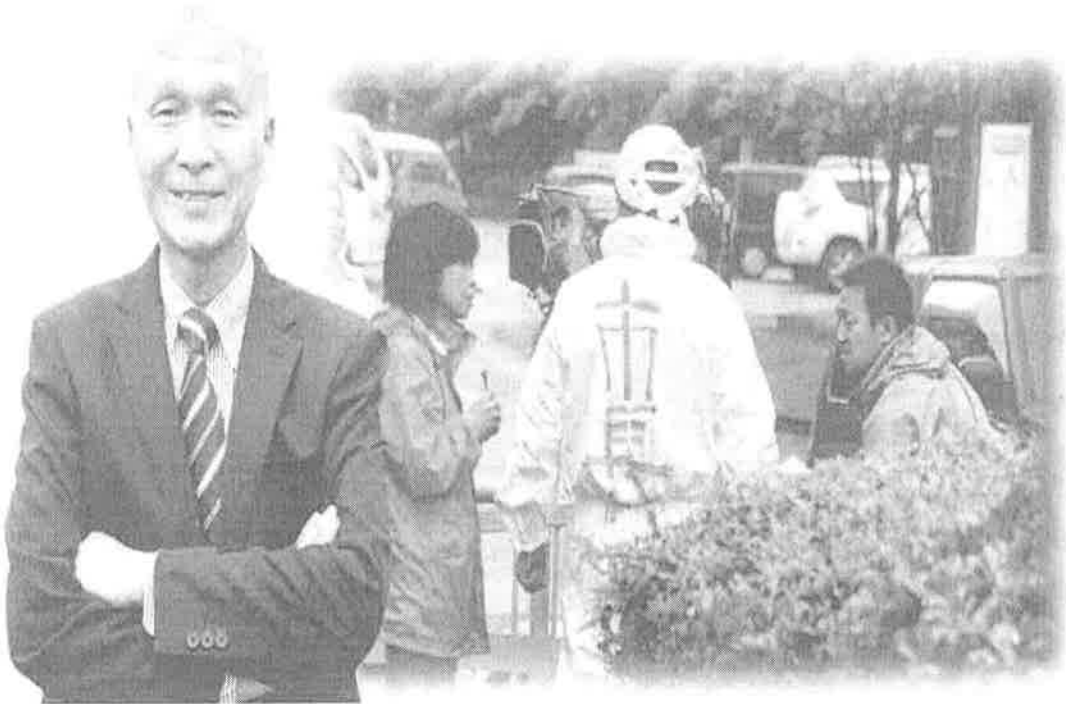
家畜の命に花束を

1

～あの日から10年

前西都市長（宮崎県）

橋田 和実



「口蹄疫が蔓延すると国が滅びる」、これは昔から言われている言葉です。

私は市長になる前、畜産技術員として仕事をしていましたが、この言葉の意味を深く考えたことはありませんでした。

というのも口蹄疫は人間には感染しません。家畜特有の伝染病なので、大袈裟じゃないかと思ってもいました。

ところが口蹄疫の第一例が2010年4月20日、宮崎県で発生しました。その後、私はその言葉を身体で痛感するのです。

日を追うごとに感染地域は広がり、感染を食い止めるために健康な牛や豚までワクチン接種をして殺処分することになりました。結果的に29万7808頭の家畜が犠牲になりました。

最初の頃は農協の職員と獣医さんたちで殺処分していたのですが、その数が多くなり、西都市の職員も駆り出されることになりました。

農協の職員と市役所の職員で20人から30人の班を10班編成しました。1班ずつ日替わりで現場に出るんです。今日行った班が次に行くのは10日後です。

殺処分場から役所に帰ってきますよね。みんな泣きそうなお顔をしているんです。ある課長さ